



## 庭窪小学校だより

令和5年10月17日 No.9  
 守口市立庭窪小学校  
 校長 大井 昌幸  
 住所：佐太中町 1-6-10  
 電話：06-6901-2369

### 読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋…。校庭に秋風が吹き、いよいよ秋本番です！

10月に入り、朝晩がとても涼しくなってきました。校庭に集う昆虫の姿や草花の様子から秋の気配が色濃く感じられます。年度の折り返し地点ともいえる10月は、子どもたちにとって、自分たちの成長に実感が持て、様々な活動に自信を持って取り組める時期になります。学習だけでなく、運動会などの行事に積極的に挑戦していくことでさらに大きく成長できるものと思います。2学期も残り約2か月半となりました。さらに充実した学校生活にしていきたいです。

さて、4月18日(火)に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」と5年生と6年生を対象に実施された「すくすくウォッチ」の結果が戻ってきましたので、分析した結果をお伝えいたします。

本調査の結果については、今年度だけの状況ではなく、これまでの学年で培われてきた学力の状況に関わるものです。また、本調査によりわかるのは、学力の特定の一部であり、学校教育活動の一側面に過ぎません。しかしながら、本調査より見えてきた課題については、日々の授業の結果を反映していると考えます。本校では、課題解消に向け授業改善等これからも取り組んでまいります。各ご家庭におかれましても、裏面に記載の「家庭へのお願い」についてご一読いただき、ご協力をお願いいたします。

### 令和5年度 すくすくウォッチ (小学生すくすくテスト) 結果概要

- 1 調査の目的 ○子どもたち一人ひとりが自らの強み等を知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。
- 2 実施内容 ○5年生：国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート  
 ○6年生：理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート  
 ○教職員：アンケート

#### ※わくわく問題出題内容

- ・教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題
- ・文章やグラフ、ホームページの映像を模した場面等の様々な資料を題材としている。問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題

### 国語 (5年生対象)

本校の平均正答率は82.2%で、大阪府平均との差は+4%でした。

各問題の結果分析を行ったところ、主語と述語の関係に注意して文章を書くことや、ことわざの意味を理解することなどについては概ね身につけていることがわかりましたが、文章から必要な情報を読み取り、自分の言葉でまとめることについては課題が見られました。

### 算数 (5年生対象)

本校の平均正答率は48.9%で、大阪府平均との差は+11.4%でした。

各問題の正答率から、数と計算や図形、割合など基礎的な知識についてはしっかりと理解できている児童が多いことがわかりました。しかしながら、「正三角形と様々な四角形を構成する要素や性質を理解し、正三角形を組み合わせても現れない四角形を考え、その理由を説明する。」などの、自由に考えを記述する問題については課題が見られました。

### 理科 (5・6年生対象)

本校の平均正答率は5年生で60%で、6年生では80%で、大阪府平均との差は+7%でした。

正答率の傾向から、「乾電池2個と豆電球1個からなる回路で、乾電池を直列つなぎにしたときと並列つなぎにしたときの豆電球の明るさの違いを理解する。」など、知識を問う問題に不安を感じる児童が5年生6年生ともに複数名いることがわかりました。しかしながら、観察の結果や実験結果から考えをまとめ記述する問題については、しっかりと考察し、結果をまとめることができた児童が多かったです。

### わくわく問題 (5・6年生対象)

本校の平均正答率は70.2%で、大阪府平均との差は+3%でした。

解答状況から、出題された問題について、その趣旨をしっかりと理解したうえで自分の考えを表現できた児童が多かったです。特に、「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。」問題や、「興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。」問題については正答率が高かったです。

#### アンケート結果から

##### 【学習に対する意識】

- ・95.0%以上の児童が、「話し合いの時に友達の意見を最後まで聞いている」と回答している。
- ・「黒板に書かれた内容をノートに写している。」と回答した児童は100%であった。
- ・89.0%の児童が、「授業で学んだことを普段の生活にいかすようにしていると回答している。

##### 【学校生活に関すること】

- ・95.0%以上の児童が、「日直や係の仕事をがんばっていると回答している。

##### 【自分自身に関すること】

- ・93.6%の児童が、「自分には良いところがある」と回答している。
- ・91.4%の児童が、「将来の夢や目標を持っている」と回答している。



##### 【アンケートから見えてきた課題】

- ・約20%の児童が、休み時間と授業時間の切り替えが苦手と答えており、メリハリのある学校生活が定着できるようにしたい。
- ・答えが明確な問題には自信をもって回答できる児童が多いが、考えを自分でまとめる問題では自信を持っていない児童が多い。
- ・話し合いをするとき、友達の意見を聞くことが苦手な児童が多い。

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

**調査概要** ※本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

1. 調査の目的
  - 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
  - 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
  - 以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
2. 調査の対象
  - 小学校及び義務教育学校前期課程 第6学年
3. 調査の内容
  - 教科に関する調査 国語, 算数
  - 質問紙調査 児童の学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

## 教科に関する調査より 本校の児童の学習状況

今年度はコロナウイルスが5類へと変更になったことから、昨年度までとは違い児童がのびのびと学習できる機会が大幅に増えました。昨年度まで制限せざるを得なかったグループでの活動や、理科の実験などの実技を伴う活動についても、これまでの取組みをさらに発展させ、iPad 等を活用も含め、児童どうしが意見を交換し合う交流学习を活発に行うことができました。

しかし、自分の考えを文章にまとめて書くことや、問題に聞かれている内容を説明することなどについては、まだまだ苦手意識が強く、今後も引き続き『書く力』の育成ならびに『読む力』の育成が課題であると考えます。

今後も、児童一人ひとりにとって豊かな学びにつながるよう、一層授業改善に努めてまいります。

## ○国語

本校の平均正答数は 10.4/14 問で、平均正答率は 75%でした。大阪府平均よりも9%上回っており、全国平均よりも 7.8%上回っていました。

各問題の結果分析を行ったところ、特に『話すこと・聞くこと』・『読むこと』の領域で正答率が高く、大阪府平均・全国平均を大幅に上回っていました。一方、『書くこと』については、文章の要約や、自分で意見をまとめて内容を整理して書いたりする問題に正答率がやや低く、苦手に思っている児童が少なからずいることがわかりました。

## ○算数

本校の平均正答数は 11.6/16 問で、平均正答率は 73%でした。大阪平均よりも11%高く、全国平均よりも 10.5%高い結果となりました。

各問題の結果分析を行ったところ、すべての領域で高い正答率を示しており、特に計算領域や図形領域において基礎基本が定着している児童が多いことがわかりました。また、記述式の問題では無回答率が低く、最後まであきらめず粘り強く問題に向かう児童が多いこともわかりました。

一方、比例などの『変化と関係』の領域では、伴って変わる2つの数量の関係が比例の関係ではないことを説明する問題などにおいて、解答に不安を感じる児童が少なからずいたことがわかりました。

## 質問紙調査より

### 【学習に対する意識】

- ・約90%の児童が国語科・算数科の学習は将来役に立つと回答しており、意欲的に学んでいる児童が多い。
- ・100%近い児童が調べ学習や発表の際に iPad が役に立っていると回答している。
- ・約90%の児童が、学習内容の振り返りをしていると回答している。

### 【家庭学習】

- ・約80%の児童が毎日30分以上勉強していると回答している。
- ・約80%の児童が家庭での学習に取り組み、習慣として身につけている。

### 【読書習慣】

- ・約 80%近い児童が、学校の授業以外にも普段(月曜日～金曜日)から 10 分以上読書に親しんでいる。
- ・70%以上の児童が読書が好きだと回答している。

### 【生活習慣・学校生活および自分に関すること】

- ・朝食を食べる、起床・就寝時間がおおよそ定まっており、生活習慣が安定していることが見られる。
- ・90%以上の児童が「自分にはよいところがある」と回答しており、自己肯定感が高い児童が多い。

## 成果

- ・自己肯定感が高い児童が多く、意欲的に学校生活を送っている。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣が定着している割合が高い。
- ・困っている人に対して手助けしたいと考えている児童の割合が高く、公共心や公德心が育っている。

## 課題

- ・友達関係に悩みを持つ児童が少なからずいる。
- ・学習で、自ら考えを発表したり意見をまとめたりする活動に苦手意識を持つ児童が多い。

## 学校での今後の取組みについて

- 各学年の学習内容を確実に習得できるよう、iPad も有効に活用しながら、児童の得意とするトレーニングや反復学習をして達成感を持たせながら今後も取り組んでいきます。
- 「書く力の育成」をめざすとともに「読む」活動にも力を注ぎます。読書に親しむ習慣の定着と、伝える目的や相手を意識した文章を書ける力を育てます。また、意識的に習った漢字を使うようにします。
- 「国語」では、目的に応じて文章の要点をおさえながら読み取り、必要なキーワードを見つけ出し分かりやすく伝えるための記述の工夫や、条件を満たした記述ができるよう取り組んでいきます。
- 「算数」では、公式やきまりを学習する際、理由や意味を意識して理解するようにします。
- 解答の求め方を理解し、その説明を数や式、言葉を使って表せるようにします。

ご家庭へ  
のお願い



- 引き続き、規則正しい生活と習慣的な家庭学習が身につくよう、ご指導ください。
- 全学年で音読の宿題を出していますので、ご家庭でも聞いてあげてください。
- 学習したことの復習である宿題やテストを、ご家庭で必ず確認し、お子様の理解度の把握に努めてください。